

令和3年度
教育委員会活動の点検・評価報告書

知名町教育委員会
令和4年9月

I 点検・評価の概要

1. はじめに

平成 19 年 6 月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、すべての教育委員会が「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価」を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に報告するとともに、地域住民に対して公表するように義務づけられた。また、その実施にあたっては、学識経験者の知見を活用するよう義務づけられている。

2. 点検評価の実施について

この点検評価は、教育委員の会議による審議状況や教育委員による調査活動と教育委員会の事務事業の執行状況について、実績や成果と課題を記述し、次に示す 4 区分により達成度の評価を行った。

点 数	内 容
4	順調に達成しているもの
3	おおむね順調に達成しているもの
2	達成見込みがあるが課題があるもの
1	順調でないもの

3. 知名町教育委員会の取組方針

今回で 14 回目となり、令和 3 年度に実施した点検・評価を踏まえ、同様に評価項目を 4 段階での数値評価とした。令和 3 年度は社会教育・図書館・公民館関係の 3 項目を対象とし、今回の評価項目は、教育委員会・学校教育・学校給食センター関係について、教育長及び教育委員 4 名による自己点検、自己評価を実施し、評価委員の評価と意見をいただき集約したものを本報告書にまとめ、令和 4 年 9 月の第 3 回議会定例会で報告することとした。

(1) 教育委員会関係では、評価項目を「①教育委員会の会議の運営」「②委員の研修等」「③委員の活動等」の3項目とし、点検評価を行った。

教育委員会の年間を通じた会議，研修，委員活動について，項目毎に教育長，主管課長により配付資料等も含め説明，その後の質疑をもとに4段階の数値による評価と記述による意見をまとめた。

(2) 学校教育関係では、評価項目を「①豊かな心，健やかな体を育む教育の推進」「②自ら学び，社会で自立する力を育む教育の推進」「③信頼される学校づくりの推進」「④郷土を愛し，郷土で学ぶための環境づくりの推進」の4項目とし，点検評価を行った。

各学校の具体的実践内容などについて，教育長，課長が関係資料により説明，その後の質疑をもとに同様の数値による評価と記述による意見をまとめた。

(3) 知名町立学校給食センター関係では、評価項目を「①栄養のバランスのとれた豊かな学校給食」「②望ましい食習慣を形成する学校給食」「③食物アレルギー対応給食の実施」「④安全な給食の提供」「⑤給食を通じての学校・家庭及び地域との連携」の5項目とし点検評価を行い，同様の数値による評価と記述による意見をまとめた。

教育行政評価委員

役 職 等	氏 名
元 教 員	沖 野 富 秀
元町職員	栗 尾 廣 美

知名町教育委員会自己点検・評価

1 教育委員会関係

評価項目	評 価 の 観 点	評 価
1 教育委員会の 会議の運営	1 定例会，臨時会の会議は適切に開催されたか。 (回数，時期，日程，議事等) ----- (反省・意見) ○定例会12回（毎月1回），臨時会1回。議決議案28件，教育長専決承認7件。（R3実績）	4.0
	2 資料の事前配布等が適切になされたか。 ----- (反省・意見) ○個人情報を取扱う案件を除き，3～4日前に資料配布。（R3実績）	4.0
	3 議案（報告）等の審議は適切な意見交換がなされ，十分審議されたか。 ----- (反省・意見) ○議事の審議は十分に時間をかけてなされている。	3.9
	4 必要に応じて，報告・連絡・相談及び事前勉強会や相互研修等がなされたか。 ----- (反省・意見) ○教育長の教育行政報告は毎月適切にされており，また，各委員も学校訪問・行事等への参加を通して状況把握に努め，報告等もされている。	3.6
	5 委員の意見・提案は施策に反映されたか。 ----- (反省・意見) ○委員と事務局との連携はよくされ，個別の施策についても意見交換がされている。	3.6
	6 会議の公開，広報等は適切になされたか。 ----- (反省・意見) ○会議の公開，広報等については，十分とはいえない。広報ちな又はホームページを活用して日程を知らせたり，移動教育委員会の開催を検討するなど工夫が必要である。 ○会議録の公開請求には，原則公開で臨んでいる。	2.9

2 委員の研修等	<p>1 県, 地区, 町等の研修への参加が適切になされたか。 (反省・意見) ○県・地区の総会・研修会は, 新型コロナの影響により書面開催となった。県教育委員会主催の研修会に2名の委員が参加した。(R3実績)</p>	3.0
	<p>2 当面する課題に対する研修が適切になされたか。 (反省・意見) ○日頃から, 委員自ら課題等を見つけ, その解決のため研修する機会を設けていくことも必要である。</p>	2.7
3 委員の活動等	<p>1 教育委員会主催行事, 学校行事, 各種団体主催行事等への出席は適切になされたか。 (反省・意見) ○全員が教委主催行事や学校行事には出席できている。各種団体行事には都合のつく限り出席するようにしている。</p>	3.7
	<p>2 各種行事等に対する改善点について, 委員の意見・提案がなされ, 改善等に反映されたか。 (反省・意見) ○定例会で行事に参加しての感想や意見を出し合い, 改善点については, 校長会や教頭会などに反映させている。</p>	3.3
	<p>3 地域住民, 町民等から相談, 意見, 情報等の提供がなされ, 適切な対応がなされたか。 (反省・意見) ○学校施設の改修等についていくつかの相談・情報等が寄せられ対応してきているが, 一部財政的・町の全体施策等の課題により抜本的な解決には至っていないものがある。 ○地域住民・町民等からの情報を得る工夫が必要である。</p>	3.0
	<p>4 教育委員と町長, 社会教育委員, 学校長との懇談会は適切になされたか。 (反省・意見) ○町長が主催する総合教育会議は, この数年開催されていない。 ○学校長との個別の意見交換は学校訪問等でなされているが, 社会教育委員との定期的な懇談は課題となっている。</p>	2.3

知名町教育委員会自己点検・評価

2 学校教育関係

評価項目	評価の観点	評価
1 豊かな心, 健やかな体を育む教育の推進	1 自他を大切にする心の教育が推進されているか。 (道徳教育の充実等) ----- (反省・意見) ○各学校において道徳教育の年間計画を作成し道徳の授業に向けて取り組んでいる。多くの学校が道徳教育を重点課題の一つとして取り組んでいる。	3.3
	2 生徒指導の充実が図られているか。 (いじめや不登校等への対応, SC・SSWの活用, SNS等) ----- (反省・意見) ○多くの学校がいじめを発見したらその日の内に解決するよう努めている。不登校の児童生徒には担任・養護教諭が連携し, 定期的な訪問及び保護者との連絡を密にし, 学校との繋がりを保っている。 ○県派遣のSCが定期的に各学校を訪問し, 保護者, 児童・生徒, 教諭の相談を受けている。また, 随時SSWが学校や家庭を訪問し関係機関との連絡調整を行っている。 ○テレビや情報端末機器でのSNSや動画の視聴時間など家庭内でのルールを守るための啓発が重要である。	3.3
	3 基本的な生活習慣の定着を図っているか。 (早寝・早起き・朝ごはん, 家庭学習, ノー部活動デー, 挨拶) ----- (反省・意見) ○あいさつ, 返事, 整理整頓, 服装など各学校が一事徹底事項に挙げて取り組んでおり, 継続実践してほしい。 ○歯科検診で, う歯罹患者の割合が, 小学校73%, 中学校53%となっている。処置率の向上を多くの学校が重点事項に挙げ, 保護者への啓発に努めている。 ○週の中で平日に1日, 土日に1日の2日間のノー部活動デーを設け, 生徒の休養の確保と教職員の業務改善に努めた。	3.1
	4 人権教育の充実に努めているか。 (研修会・講演会による教職員の意識高揚・指導力向上, 人権擁護委員との連携) ----- (反省・意見) ○毎年, 人権同和問題啓発強調月間の8月に人権同和教育研修会・講演会を開催し, 教職員の意識高揚及び人権教育の指導力向上に努めている。令和3年度は, オンラインでの開催となった。 ○各学校では, 教科教育を通して人権尊重の教育を推進するとともに, 学校だより等により人権教育に関する情報発信を行っている。	3.3
	5 健康に関する教育の充実が図られているか。 (一校一運動による体力・運動能力向上への取組, 食に関する指導, 学校保健委員会活動の充実) ----- (反省・意見)	

	<p>○各学校では自校の児童生徒の運動能力の課題を解決するための一校一運動の取組や教科体育の充実に努めている。</p> <p>○「体力アップ！チャレンジかごしま」など各学校での取り組みの成果も現れているが運動の2極化もあり，肥満等の問題など課題もある。</p> <p>○食に関する指導の年間計画を作成し，栄養教諭を活用した授業を実施している。偏食，残食の多い学級等もあり，食育の必要性がますます重要となってくる。</p> <p>○各学校で学校保健委員会を開催し，心身の健康を研究・協議し健康づくりに努めている。</p>	3.6
2 自ら学び, 社会で自立する力を育む教育の推進	<p>1 確かな学力の定着を図っているか。 (質の高い授業, 指導法改善, 定着度調査の活用, イングリッシュ・キャンプの開催)</p> <p>(反省・意見)</p> <p>○多くの学校で授業充実の3ポイントを意識した学習が行われている。導入・展開・終末の時間配分を考え, まとめの後に演習問題に取り組みせることで「確かめ・見届け」の充実を図る姿が見られる。</p> <p>○前年度の鹿児島学習定着度調査の結果を分析した上で, 今年度の指導法改善に取り組む姿がみられる。</p> <p>○8月に宿泊なしで, 二日間のイングリッシュ・キャンプを開催し, 小中学生20名が参加した。海洋ゴミを題材にSDG'sについて英語で研修等を行った。</p>	3.0
	<p>2 特別支援教育の充実に努めているか。 (教育支援委員会・特別支援連携協議会, 合理的配慮及び環境整備, 特別支援教育支援員の活用・連携の充実)</p> <p>(反省・意見)</p> <p>○町教育支援委員会及び特別支援連携協議会を年2回開催し, 就学前から保育園・子ども園との連携を取っている。児童・生徒の特性に合わせて学校の環境整備に努めている。特別支援教育支援員の確保には毎年苦労しているため, 早い時期から確保に努めた。</p>	3.3
	<p>3 読書活動の推進に努めているか。 (学校図書館運営, 朝読書・読み聞かせ・読書集会活動の充実, 家庭と連携した読書活動の推進)</p> <p>(反省・意見)</p> <p>○読書指導年間計画を立て, 本に親しむ機会を増やし, 読書の習慣化を図っている。</p> <p>○一人50冊の目標を達成している児童生徒は多いものの, 個人差も大きく活字離れと思われる児童生徒も少なくない。</p> <p>○保護者による読み聞かせを行う学校が増えている。</p> <p>○移動図書館車「えらぶっくカー」の導入による読書活動の活発化に期待したい。</p>	3.1
	<p>4 認定こども園との連携強化を図っているか。 (教育課程等の改善・充実, 読み・書き・算の基盤となる活動の推進, 保育研修の充実)</p> <p>(反省・意見)</p> <p>○幼小連携は, 教育課程に位置付け, 交流活動を中心に進められている。認定こども園のアプローチカリキュラムを受けた小学校のス</p>	3.1

	<p>ターゲットカリキュラムにより，幼児教育から小学校教育への円滑な接続を行うため，体験入学・保護者説明会や幼小連絡会等を開催している。</p>	
	<p>5 社会の変化に対応した教育の推進を図っているか。 (I C Tを活用した学習活動及び情報モラル教育の充実，国際理解教育，環境教育，ボランティア活動の充実) (反省・意見)</p> <p>○1人1台の端末の活用が本格的に開始されたが，教科や先生により活用状況に差がある。</p> <p>○パソコンの利用を楽しみにしている一方で，情報モラルに関する知識が乏しい。情報活用能力の向上と併せて情報モラル教育を推進する必要がある。</p> <p>○国際理解については，教科授業の中でも扱っているが，住吉小では，本町が東京オリンピックのホストタウンを務めたグレナダ国のメダリスト等とオンライン交流を行った。また，カリブ海料理をメニューに入れた給食を提供した。</p> <p>○環境教育は，教育活動以外に，P T A・子ども会・地域主催の清掃活動等への参加により身近な環境問題に目を向ける活動を行っている。また，世界的な課題であるS D G'sを踏まえ，海岸漂着物の調査・分析を児童・保護者等が参加して行った。(住吉・田皆・上城小)</p>	3.3
3 信頼される学校づくりの推進	<p>1 開かれた学校づくりを推進しているか。 (学校評価に基づいた学校経営，学校運営協議会の導入・充実，地域人材の有効的活用) (反省・意見)</p> <p>○学校評議員会を定期的に開催し，学校評議員の意見を取り入れながら，学校運営を進めている。地域人材は，島ムニ大会や運動会などの場で十分に活用している。今後は，学校応援団や地域学校協働活動の充実を図っていく必要がある。</p> <p>○小学校2校において，次年度からの学校運営協議会の導入に向け委員の依頼等の取組を行った。</p>	3.7
	<p>2 教職員の資質向上に努めているか。 (一人一研究授業及び主体的・対話的で深い学びの推進，授業中心の校内研修体制・内容の充実，生徒指導の小・中・高連携の充実，服務指導の徹底，学びの羅針盤の活用促進) (反省・意見)</p> <p>○どの学校も授業を中心とした研修を進めている。校内研修や経験者研修など，学校の実態に応じて一人一研究授業に取り組んでいるが，学校，個人によって取組に差がある。</p> <p>○中学校区単位での小中連携部会，秋季教育研究大会，小中連絡会及び小中高連絡会において，意見交換を行い円滑な引継ぎに努めている。</p> <p>○確かな学力の定着，より質の高い授業，授業改善等のために「学びの羅針盤」の活用を促進する必要がある。</p>	3.4

	<p>3 安全・安心な学校づくりに努めているか。 (学校施設の耐震化・改修等の推進, 安全教育・避難訓練等の充実, 学校の安全管理体制の整備)</p> <p>(反省・意見)</p> <p>○校舎改築から年数が経過しており, 屋根・外壁の補修が必要な学校が見受けられる。補助事業を活用した年次的な補修計画を策定する必要がある。</p> <p>○登下校時以外で交通事故に遭う児童・生徒がいた。放課後や休日における安全指導を適切に実施する必要がある。</p> <p>○スクールガードを活用し, 登下校時の児童生徒の安全を守る体制が整えられている。</p>	3.3
4 郷土を愛し, 郷土で学ぶための環境づくりの推進	<p>1 特色ある教育活動の充実に努めているか。 (交流学习・集合学習の推進, 島唄島ムニ大会・伝統芸能の継承活動の充実, 科学の祭典の充実等)</p> <p>(反省・意見)</p> <p>○ジャガイモ栽培, ケイビング体験, 地域の方による方言指導を取入れ, 郷土への愛着を深める教育を推進している。</p> <p>○コロナ禍の中で, 科学の祭典, 島唄島ムニ大会を開催することができたが, 子ども芸能祭は中止となった。</p>	3.4
	<p>2 地域人材の活用を推進しているか。 (地域人材の協力・支援による体験活動等の充実)</p> <p>(反省・意見)</p> <p>○地域の方の協力による三味線指導, ジャガイモ・さとうきび栽培, 米づくり等の体験活動が行われている。</p>	3.7
	<p>3 コミュニティーセンター的役割を果たす学校づくりの推進を図っているか。(学校緑化の推進, 花壇コンクールの開催, 学校施設の開放促進)</p> <p>(反省・意見)</p> <p>○花壇コンクールを毎年開催しているが, 多くの学校で取組に力を入れている。年間スケジュールに沿って花の栽培を行っているため一日のみの審査で評価することは難しい面がある。</p> <p>○各学校の屋内運動場を休業日や夜間に社会人のスポーツ活動等のために開放している。</p>	3.1
	<p>4 家庭の教育力の向上に努めているか。 (家庭学習60・90運動の推進)</p> <p>(反省・意見)</p> <p>○各学校の学校評価から60・90運動の定着が見られる。家庭学習強調週間の取組や家庭と連携した生活リズムの確立により家庭学習の習慣化が図られつつある。今後も見届け, 継続を行っていくとともに家庭学習の質や内容の向上も図っていく必要がある。</p>	3.3

3 知名町立学校給食センター

評価項目	重点目標	令和3年度の実績・成果と課題	評価																																										
<p>1 栄養のバランスのとれた豊かな学校給食</p>	<p>1 栄養価の充足と安心安全な魅力ある美味しい給食の実施</p> <p>(目標)</p> <p>学校給食実施基準(R3.4.1改正)の充足</p>	<p>(実績)</p> <p>○学校給食実施基準の充足率(R3:単位%)</p> <table border="1" data-bbox="837 481 1289 1176"> <thead> <tr> <th></th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>エネルギー</td><td>92.9</td><td>86.8</td></tr> <tr><td>タンパク質</td><td>89.1</td><td>82.7</td></tr> <tr><td>脂質</td><td>98.3</td><td>91.3</td></tr> <tr><td>ナトリウム</td><td>92.0</td><td>93.3</td></tr> <tr><td>カルシウム</td><td>94.0</td><td>83.5</td></tr> <tr><td>マグネシウム</td><td>176.0</td><td>86.6</td></tr> <tr><td>鉄</td><td>90.0</td><td>82.5</td></tr> <tr><td>亜鉛</td><td>145.0</td><td>113.3</td></tr> <tr><td>ビタミンA</td><td>134.0</td><td>104.3</td></tr> <tr><td>ビタミンB₁</td><td>150.0</td><td>144.0</td></tr> <tr><td>ビタミンB₂</td><td>142.5</td><td>110.0</td></tr> <tr><td>ビタミンC</td><td>135.0</td><td>106.6</td></tr> <tr><td>食物繊維</td><td>100.0</td><td>92.3</td></tr> </tbody> </table> <p>(成果)</p> <p>○学校給食摂取基準(文部科学省)のもと献立作成を行い、おおよそ栄養価の充足を図ることができた。</p> <p>○学校給食が「生きた教材」として活用できるよう工夫し、教科等との関連した献立作成を行った。</p> <p>○食に関する年間指導計画に基づき、行事食や旬の地元食材等を積極的に取り入れることができた。</p> <p>○生産者グループ「あたらしゃ会」を活用し、「知産知消(地産地消)」に取り組むことができた。</p> <p>○毎年6月を「食育月間」、毎月19日を「食育の日」と設定し、献立予定表やすくすく通信等を活用して、学校や家庭へ情報発信を行うことができた。</p> <p>○毎月8のつく日(8日・18日・28日)を「いい歯(8)の日」と設定し、歯の健康に良いとされる食材や噛みごたえのあるメニューを取</p>		小学校	中学校	エネルギー	92.9	86.8	タンパク質	89.1	82.7	脂質	98.3	91.3	ナトリウム	92.0	93.3	カルシウム	94.0	83.5	マグネシウム	176.0	86.6	鉄	90.0	82.5	亜鉛	145.0	113.3	ビタミンA	134.0	104.3	ビタミンB ₁	150.0	144.0	ビタミンB ₂	142.5	110.0	ビタミンC	135.0	106.6	食物繊維	100.0	92.3	<p>3.3</p>
	小学校	中学校																																											
エネルギー	92.9	86.8																																											
タンパク質	89.1	82.7																																											
脂質	98.3	91.3																																											
ナトリウム	92.0	93.3																																											
カルシウム	94.0	83.5																																											
マグネシウム	176.0	86.6																																											
鉄	90.0	82.5																																											
亜鉛	145.0	113.3																																											
ビタミンA	134.0	104.3																																											
ビタミンB ₁	150.0	144.0																																											
ビタミンB ₂	142.5	110.0																																											
ビタミンC	135.0	106.6																																											
食物繊維	100.0	92.3																																											

		<p>り入れて噛むことの大切さを意識づけることができた。</p> <p>(課 題)</p> <p>●小学校の栄養価では、90%以上の充足を図ることができたが、中学校の栄養価では、85%以下の充足となったタンパク質・カルシウム・鉄について、献立作成や給食費の運営において今後、工夫改善が必要である。</p>	
	<p>2 学校給食を通して学校・家庭・地域との連携</p>	<p>(実 績)</p> <p>○地域に伝わる郷土料理や郷土のお菓子、また地元の食材を活用した料理を積極的に取り入れることができた。</p> <p>○地元の食材を活用するに当たって、すすく通信を活用し、生産者を写真とともに紹介した。</p> <p>○学校や地域の方々の給食センター見学を積極的に受け入れを行ったことにより、地域に根ざした給食センターとして広く紹介することができた。</p> <p>○児童生徒が育て、収穫したジャガイモを学校給食に活用し、献立予定表やすすく通信、放送原稿等で紹介した。</p> <p>○和泊町・与論町と連携し、与論の特産品であるサメ、沖永良部の特産品であるきくらげを使った「三町仲良し献立」を実施した。</p> <p>(成 果)</p> <p>○郷土料理や郷土のお菓子を味わうことで、食や地域の食材について興味関心を高めることができた。</p> <p>○生産者の顔が見えることにより、より地元の食材や地域を身近に感じることができ、郷土を愛する心の育成につながった。</p> <p>○調理員と共に給食を食べたり、話を聞いたりすることで、給食に携わる人々への感謝の気持ちが生まれた。</p> <p>(課 題)</p> <p>●生産者の高齢化や生産者グループの人員減少により、納入食材の品目減少が目立つ。新規生産者の参加や定例会の在り方を検討する必要がある。</p>	<p>3.3</p>

	<p>3 セレクト給食やリクエスト給食を通して、食品を知り、自分で選ぶ楽しさを味わうことのできる給食の提供</p>	<p>(実績) ○年2回のセレクト給食，年1回のリクエスト給食を前年度の反省を踏まえ，規模や内容を変更して実施した。</p> <p>(成果) ○選択したり，給食について考えたりすることで，児童生徒の給食への興味関心が高まり，目的をもって給食を食べることにつながった。</p>	<p>4.0</p>
<p>2 望ましい食習慣を形成する学校給食</p>	<p>1 食に関する指導を通じて、食べることの大切さを伝え、日常生活に生かすことができる、能力や態度の育成</p> <p>(目標) 各学級へ食に関する指導等を年1回以上行う。</p>	<p>(実績) ○担任の先生とのTTにより，特別活動や教科等で食に関する指導を実施した。</p> <p>○給食指導時間等を活用し，給食指導を行った。</p> <p>(成果) ○発達段階に合わせたTTによる指導により栄養教諭の専門性を最大限生かした食に関する指導を行うことができ，行動の変容が見られた。</p>	<p>3.4</p>
<p>3 食物アレルギー対応食の実施</p>	<p>1 食物アレルギー対応食の実施について、文部科学省「学校給食における食物アレルギー対応指針」にもとづいた一貫性のある対応の実施</p>	<p>(実績) ○町食物アレルギー対応マニュアルをもとにアレルギーを有する児童生徒の保護者及び学校との連携を図り，適切な対応を行うことができた。</p> <p>○【食物アレルギーを有する児童生徒の対応状況】</p> <p>24品目</p> <p>【対象児童生徒】</p> <p>小学校 16名（教諭1名含む）</p> <p>中学校 8名（教諭1名含む）</p> <p>(成果) ○安全なアレルギー対応を行うことができた。</p> <p>(課題) ●アレルギー対応委員会が学校長のリーダーシップのもとに成り立つ組織であることを十分に理解し，教育活動（学校給食も含む）への柔軟な対応を組織として取り組む必要がある。</p>	<p>3.1</p>

4 安全安心な給食の提供	1 衛生管理の徹底	<p>(実 績)</p> <p>○長期休業期間を利用し、衛生管理研修を実施した。</p> <p>○衛生管理マニュアルの見直しを行った。給食センターの新施設・設備に合わせたマニュアルの作成。</p> <p>(成 果)</p> <p>○調理員の衛生管理に対する意識の向上が見られた。</p>	3.4
	<p>2 食品及び調理場内の衛生管理の徹底</p> <p>(目 標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品検査年2回 ・水質検査(毎日調理前後) ・清掃・消毒検査(毎日) ・鼠, 害虫等防除(学期毎) ・ふき取り検査(毎月) 	<p>(実 績)</p> <p>○学校薬剤師による年1回の定期検査を実施した。</p> <p>○食品検査等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品検査 年1回 ・水質検査 毎日調理前中後 ・清掃・消毒検査 毎日 ・鼠, 害虫等防除 学期毎 ・調理場等環境衛生 毎日 ・ふき取り検査 毎月 <p>(一般生細菌・大腸菌群・サルモネラ菌・黄色ブドウ球菌)</p> <p>(成 果)</p> <p>○食品及び衛生検査の結果, 基準値を満たしていた。</p> <p>○学校給食衛生管理基準を遵守し, 検査結果を日々の衛生管理に活用しつつ, 衛生管理の徹底を図ることができた。</p> <p>(課 題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●調理員の衛生管理の理解度に差があるため, 危機管理の意識が低い従事者に対し, 個別的な指導が必要である。 ●衛生管理責任者の指示に従わない場合の対処について, 個別的な指導が必要である。 	2.4
	3 事前ミーティング・朝礼の実施	<p>(成 果)</p> <p>○ミーティングで調理員の発表を取り入れたことにより, 主体的に取り組むことができた。また振り返りや見直しができ, 次回の調理につながった。</p> <p>○朝礼を取り入れたことにより, ミーティング内容の確認や急な変更についての連絡ができ,</p>	4.0

		スムーズな運営につながった。	
5 給食を通じての学校・家庭及び地域との連携	1 施設見学や給食試食会等の積極的な受け入れ	<p>(実績)</p> <p>○施設見学・試食会等の実施 試食会年間5回実施</p> <p>(成果)</p> <p>○保護者の試食アンケートより、試食を通じて、学校での給食の様子や、献立内容及び食事の大切さについて、理解してもらうことができた。</p>	3.4
	<p>2 家庭への情報発信</p> <p>(目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食献立予定表及び食育だよりの発行(月1回) ・すくすく通信の提供 	<p>(実績)</p> <p>○給食献立予定表および食育だよりの発行 毎月1回</p> <p>(成果)</p> <p>○給食や食に関する内容について家庭への情報発信を行い、家族で活用できるようした。毎月の発行を楽しみにしており、食への興味関心が高まったようである。</p>	4.0
	<p>3 給食センター、学校及びPTAとの意見交換を行い、連携を深める。</p> <p>(目標)</p> <p>※運営委員会の開催(年2回)</p> <p>※給食担当者会議の開催(年2回)</p>	<p>(実績)</p> <p>○各会議を開催した。</p> <p style="padding-left: 20px;">※運営委員会 2回</p> <p style="padding-left: 20px;">※給食担当者会議 2回</p> <p>(成果)</p> <p>○給食センターの情報を提供することができた。</p> <p>今後も意見交換の場を設け、円滑な給食運営が図れるよう働きかけたい。</p>	4.0

Ⅲ 教育行政評価委員意見のまとめ

1 教育委員会関係について

(1) 教育委員会の会議の運営について

定例会、臨時会の開催が行事・出張等との調整を図り適切に実施されている。議案等についての資料を事前に配付し、事前研究をして会議に臨み、十分な意見交換ができるように努めていることは基本であり、更に充実させていただきたい。

町教育委員会の施策等については、広報「ちな」やホームページを利用して積極的に、町内外に広報していただきたい。そして、開かれた教育委員会制度の確立に積極的に取り組み、教育行政に関心のある町民からの声や要望に対応できる様な態勢は確立しておく必要がある。また、「教育・文化の町」として、多くの町民に教育委員会の活動について、「どのような方法で関心を持たせていくか」が課せられた課題である。

(2) 委員の研修等について

県市町村教育委員会連絡協議会総会・研修会と大島地区市町村教育委員会連絡協議会総会・研修会が例年計画されているが、3年度においては、新型コロナの影響で書面開催となり、研修会は開催されなかった。県主催の市町村教育委員会委員の研修会には、2名の委員が参加し、県内の状況の把握及び見識を深めることができている。

各委員が得た情報等について、委員相互による意見交換が行われ、現状把握・共通理解が図られている。また、当面する課題やGIGAスクール構想等の教育改革の動向等について、教育委員会定例会での事務局からの報告や委員各々の情報収集により見識を深めていることは、職務遂行上有効である。

(3) 委員の活動等について

教育委員の活動内容の主たるものは、毎月の定例教育委員会での議事や協議事項の審議及び報告等である。町教育委員会の重点施策への各学校の取組状況と成果を把握する場として、学校行事として実施されている入学式、卒業式等の儀式的行事、運動会、体育大会、記録大会等の体育的行事、学習発表会、文化祭等の文化的行事と多岐にわたる行事へ積極的に出席して児童・生徒や教職員の活動を直に見て、後日感想、意見を出し合い、校長研修会や教頭研修会をとおして、改善に資していることはよい。また、教育委員としての立場上から、各種団体の主催する行事への案内も多いが、できるだけ都合をつけて出席している。町民や地域住民、保護者等からの要望、相談、意見等を収集して、改善・解決に向けて誠心誠意努力する事は大切なことである。今後とも、迅速な課題解決に取り組んでもらいたい。

教育委員がいろいろな催しなどの場で、学校長と言葉を交わす機会はあるかと思うが、教育関係の全般的な諸課題について、町長や社会教育委員と懇談をする事も意義深いと思うので、定期的な開催実現に努めていただきたい。

2 学校教育関係について

(1) 豊かな心、健やかな体を育む教育の推進

各学校においては、「豊かな心の育成」を重点課題の一つに挙げ、教育活動全般をとおして道徳教育に取り組んでいる。いじめや不登校については、初期対応を重視し、いじめを認知したらその日の内に解決するよう努めており、不登校の子どもたちに対しても学校が家庭や関係機関と連携を深め、その解消に努めている。SC及びSSWを派遣し、児童・生徒、保護者、教職員との相談体制は確立できている。う歯罹患率が小学校で7割超、中学校で5割超となっており、保護者と学校が協力して治療率向上に努めてほしい。教育関係者を対象に、人権教育の第一人者を講師に迎え、例年8月に人権同和教育研修会を開催している。3年度はオンラインでの研修となったが、教職員の意識高揚及び指導力向上のために継続してほしい。健やかな体を育むために、一校一運動及び食に関する指導が行われているが、運動の2極化、偏食等に対応するために更に内容を充実させることを期待したい。

(2) 自ら学び、社会で自立する力を育む教育の推進

確かな学力の定着のために、「主体的・対話的で深い学び」の授業実現に向けて実践及び研修が進められている。その目標達成のための取組として、各学校では「授業充実の3ポイント」の徹底、一人一研究授業の実践、学力調査の結果を踏まえた指導法改善、「家庭学習60・90運動」の推進、少人数指導や個に応じた指導の工夫に取り組んでいる。イングリッシュ・キャンプでは、海洋ゴミを題材にしたSDG'sに関する研修を行っている。時代に即した内容であり、将来を担う子どもたちにとって有意義な研修であったと思われる。増加傾向にある支援を要する児童・生徒のために保育園・子ども園と学校間の連携に努めている。また、特別支援教育支援員も増員が図られている。支援員は特別な資格要件がないため、研修等の機会の充実が必要である。読書活動については、各学校で年間計画を立て読書活動の充実に取り組んでいる。「えらぶつくカー」を導入し、貸出・返却のため週2回各小・中学校を巡回しているが、1人でも多くの児童・生徒が読書意欲を高めることに期待したい。幼小連携は、幼児教育から小学校教育へ円滑に移行するために効果的な取組が行われている。幼少期の子どもたちにとっては、大きな環境の変化になるため、引続き適切な取組をお願いしたい。これからの時代の学校生活及び社会生活において、ICTの活用は不可欠である。このため、1人1台のパソコンが整備され、GIGAスクール構想のもとで、本格的にICT教育が進められている。今後、積極的な活用と研修の充実及び子どもたちへの

モラル教育の充実をお願いしたい。オリンピックを機に、文化の異なる国とオンライン交流ができたことは、大変素晴らしいことである。今後も機会を捉えてこのような交流が諸外国と行われ、異なる文化に触れることにより相互理解につながることを期待したい。

(3) 信頼される学校づくりの推進

開かれた学校づくりのために、学校や地域の個性を生かした教育が進められ、地域の方の協力を得て郷土芸能の伝承に努めていることは素晴らしいことである。その成果を学習発表会・文化祭・島唄島ムニ大会、運動会・体育大会等で発表して保護者や多くの町民から好評を得ている。これからも保護者や地域と一体となった郷土芸能の伝承活動を続けてほしい。学校運営協議会の導入は努力義務になっている。また、学校運営により多くの意見を反映させるためにも、全学校に学校運営協議会の導入を進めてほしい。近年の教職員志望者の減少や休職・中途退職者の増加が危惧されるが、校内研修、教職経験者による研修や一人一研究授業等を通じて、若手教員の育成・指導力向上及び中堅教員の更なるステップアップに努めてほしい。校舎改築から約30年経過し経年劣化が見られる校舎もある。屋根・外壁等の修繕を計画的に実施し、安心・安全な学校づくりに努めてほしい。スクールガードを利用して、登下校時の見守り体制はできているが、放課後や休日における交通安全教育にも力を入れてほしい。

(4) 郷土を愛し、郷土で学ぶための環境づくりの推進

すべての活動・指導の根本としてのあいさつの徹底に加え、特色ある教育活動として、地域人材を活用したジャガイモ・サトウキビ栽培、田植え・稲刈り、三線・島唄・方言指導、ケイビング体験等各学校で様々な取組を実施している。これらの活動を通じて、郷土の特色やよさを理解し、本町の将来を担う人材の育成につながることを期待したい。

3 町立学校給食センター関係について

(1) 栄養のバランスのとれた豊かな学校給食について

栄養のバランスのとれた豊かな学校給食にするために、文部科学省学校給食摂取基準をもとに栄養のバランスのとれた献立により、ほとんどの項目で基準を満たしているが、中学校で充足できなかった3項目については、生徒の成長に不可欠な栄養素であるため工夫、改善に取り組んでいただきたい。行事食、郷土料理、旬の地元食材を使った料理を献立に取り入れたり、児童・生徒が栽培したジャガイモを活用することにより、地産地消にも取り組み、地域の産物や郷土料理に興味をもたせる工夫をしている。また、毎年6月を「食育月間」、毎月19日を「食育の日」に設定して献立作成するなど学校給食が「生きた教材」となるよう努めている。また、

年2回のセレクト給食を通して食品の特徴を知り選ぶ能力を養う取り組みなどが行われている。毎月8のつく日には、歯に良い食材や噛み応えのある食材を使用し、歯の健康への意識付けを行っている。

小・中学校の9年間の給食は、児童生徒の成長の重要な部分を担っており、安全・安心で魅力的な学校給食提供の取り組みが行われていることを評価したい。

(2) 望ましい食習慣を形成する学校給食について

望ましい食習慣を形成するために、栄養教諭の専門性を活かした食育指導が各学校で行われている。こうした食育指導を通じて、食べることの大切さを児童・生徒に伝えることは、望ましい食習慣を形成するうえで有効な取り組みであり、今後とも続けていただきたい。

(3) 食物アレルギー対応給食について

食物アレルギーを有する児童生徒、教諭24名に対して、学校及び保護者と連携し一人ひとりの健康状態や個人差を把握した適切な食物アレルギー対応食が実施されている。また、指針に基づき一貫性のあるアレルギー対応がなされている。

(4) 安心安全な給食の提供について

安全な給食を提供するために、全調理員に対し衛生研修会を実施し、食中毒と感染症の特徴や衛生管理基準、健康管理、手洗い方法等調理従事者としての衛生管理の基本的事項を理解させている事は大変重要な事である。また、食品及び調理場内の衛生管理を徹底するために、食品検査、水質検査、清掃・消毒検査、鼠・害虫の防除、ふきとり検査が計画的に実施され、いずれも基準値を満たしている。

令和元年8月に完成した新学校給食センターには衛生管理面に優れたドライシステムが導入され、「学校給食衛生管理基準」に基づいた食品の検収・保管、調理・配送を実施するなどの衛生管理体制を整え、安全な給食の提供が行われていることを評価したい。

(5) 給食を通じての学校・家庭及び地域との連携について

給食を通じての学校・家庭及び地域との連携を図る取り組みとして、施設見学・給食試食会の実施、給食献立表・食育だよりの発行、すくすく通信を通して食育に関する家庭への情報提供等、食への関心を高めるための取り組みが行われている。また、運営委員会や給食担当者会の開催、保護者への試食アンケートを実施して、運営上の問題点や学校、保護者からの要望、反省点等について意見交換して改善に努めている。

[総評]

令和3年度に実施された教育委員会関係，学校教育関係，学校給食センター関係の各分野における事務事業の実施内容と成果や反省点についての説明を受け，評価項目ごとの評価結果等を踏まえて評価委員としての意見をまとめた。各点検項目についての達成目標が設定されており，常に活動状況を把握しながら問題点を洗い出し改善に向けた取り組みがなされていることを評価したい。

事務事業の改善にあたっては，短期間でできるものと長い時間かかるものがあると思われるが，今回の自己評価及び成果と反省点・課題等を踏まえ，今後に残されている課題への取り組みが計画的に推進され，着実な成果が得られることを期待したい。